

大館の歴史散歩

食と生活を訪ねて (序)

この大館の地に最初に住みついた人は、いったい何を食料にし、どのように調理して食べ、生きていたのだろうか。マンモスだったのかノウマンゾウだったのか。ヤギウ・ヘラジカ・オオツノジカなども獲物であったようだ。およそ二万年から一万五千年ほど前のことで、松の実やクルミ、クリ、野イチゴ、山ブドウなどの植物も主要な食糧であったと考えられる。

やがて一万年ほど前に土器が発明されると、肉や植物を煮て軟らかくして食べるようになり、スープも飲めるようになって栄養分の摂取量が増加し、それに伴って人口も大幅に増えた。

縄文時代の貝塚からは、現在私たちが美味なものとして食べている魚介類の食滓が大量に見られ、陸の動植物から川や海にまで食糧獲得の挑戦がなされていたことがわかる。

大館地方では、平安時代中期に米作りが定着したようで、以来大館地方の主産業は水田稲作を中心とする農業へ移るようになる。江戸時代の大館城下でも、

内町(武家町)と外町(商工町)の周縁には田畠が広がっていた。周辺地域の村々は、純農村として現在に至っている。明治以降、政府の近代化殖産政策により発展した花岡鉾山町も、田園地帯に生まれた町であり、周縁には昔ながらの田畠が広がっていた。近世以来、城域や商工・鉾業地域などごく一部を除いて、大館地方のほとんどの地域での食生活は、自家生産物でまかなうことを原則としてきた。凶作時や戦中・戦後に一時混乱はあったものの、『食』の伝統と風俗に年代的・地域的な差異はなかったといえる。

その食文化が大きく揺らいだのが、昭和三十年代後半から始まった高度経済成長という大きなうねりの時期であった。社会生活全般にわたって大変革が起こり、それまでの生活基盤は大きな変貌を遂げたが、食の世界でもその波は大きく激しいものであった。

主食、副食という日常の食区分と意識の変貌、季節の食と保存・貯蔵食の変貌、人寄せの食、

労働の食、年中行事にかかわる食、食事作法や禁忌、食に関する言い伝えなど、『食』とその生活にかかわる変貌・消失は大きなものであった。日常食が多様化、国際化し、季節を超えた食物が世にあふれている。もはや後には戻れない新たな食文化を私たちは築いてきたのかもしれない。良否は別にして、こうしたことから、今年は大館の『食と生活』について訪ねてみたいと思う。古代から現代へ至る『食』の縦の系統、また日常食や特別な日の食、保存・貯蔵食といった横の類型などが紹介できればと考えている。

市役所史跡探訪会

私の本棚

中央図書館新着図書

『いちにの山歩』

小野木 三郎 著 地人書館

小学生から70歳のお年寄りまでの集団が、ふるさとの山や北アルプスを歩き、互いに啓発しあって成長していく姿を中心に、日本の山のすばらしさ、自然観察の意義などをユーモアを交えて語る。



◇一般書 ◇窮鳥を抱いて(古山高麗雄) ◇石の来歴(奥泉光) ◇やがて哀しき外国語(村上春樹) ◇夢の中の遠い声(司修) ◇はたらく青年(原田宗典) ◇紀行・アラン島のセーター(伊藤ユキ子) ◇日本の野菜(青葉高) ◇パリのお惣菜屋さんのレシピ(上野万梨子) ◇南千島探検始末記(ワリシー・ゴロウニ) ほか

◇児童書 ◇ふしぎなあの子(佐藤さとる) ◇おさるになるひ(いとうひろし) ◇あらしのあとで(ニック・パトワース) ◇ものまねきょうりゅう(斉藤洋) ◇ふしぎの森のミンピン(ロアルド・ダール) ほか

4月のテーマ関連図書コーナー 『たより』
親子読み聞かせ会 毎月第1金曜日 午後2時30分から
中央図書館の休館日 4月17日、28日、29日、5月3日～5日、15日

クイズ 広報おおだてがヒント

- ▽問題
- ①4月から場所を交換。商工課と何課?
 - ②ドームの設計コンペで優秀案が決定。建設着工は何年度に予定されている?
 - ③大館地方に米作りが定着したと思われるのは何時代?
 - ④みどりのプレゼント、今年は何の苗木?
 - ⑤大館桜まつりの開会日は?
- ▽応募方法
- はがきに住所、氏名、年齢、性別、答え(例①―②―)を書いて応募ください。
- ▽締め切り 4月27日(水) 当日消印有効
- ▽応募先 〒017大館市宇中城20番地 広報おおだてクイズ係
- ※全問正解者の中から抽選で5人に、秋田犬のオリジナルレホンカードを贈ります
- ▽3月16日号の答え
- ①宮原美佐子 ②6人
 - ③4210119 ④350円
 - ⑤4月1日～4月20日
- ▽3月16日号の当選者
- ・玉山直栄さん(金坂)
 - ・後藤淑子さん(東成町)
 - ・石川レイ子さん(赤館)
 - ・石井佳奈子さん(北神明町)
 - ・岸裕江さん(旭ヶ丘)
- ※応募総数61、全問正解者47